



日本賢人会議所



日本賢人会議所は2024年に設立十周年を迎えます
賢人会議の場を提供し内外に情報の創発を

Bulletin No.10

会報第10号

2023年(令和5年)4月7日

特集 ペットと暮らす

伊藤若冲により寛政11年(1799年)年に描かれた『百犬図 Hyakken-zu(Dogs)』は、白、黒、茶のさまざまな毛色、模様の59匹の仔犬で画面が埋め尽くされています。

巻頭言

世界で生きる、地域の底力

顧問 秋本 敏文

公益財団法人 日本消防協会 会長

私はかつて国土庁地方振興局長の時、通産省から来てくれていた人と一緒に、地方にあるそれ程大きくはない会社だがその実力は世界トップクラスと見られている会社を表彰したり、逆にヨーロッパの小さなまちなのだが、ヨーロッパ各国からお客さんが集まるイベントをやっているまちを日本で紹介することをやったことがある。新発見で面白かった。

今の私は、かつて自治省消防庁長官で、阪神淡路大震災後、緊急消防援助隊という全国的な応援体制の創設に関わり、早速全国合同訓練を開催したりしたこと等の縁から、もうおよそ20年、日本消防協会会長などで消防一筋になっている。日本は災害列島とよばれる程、火災、自然災害などいろいろな災害があり、消防の役割はまことに大きい。今年は関東大震災から100年、これからも気がかりなことは多い。

日本の消防は、職業消防士による消防署員と他に本業をもちながらボランティア的に活動してくれる消防団員から成り立っている。さかのぼれば江戸町火消、明治27年発足の消防組等の歴史を経ているが、国土全域にこの両者による体制が整備されている。しかし、災害の様相、地域社会の様子が変わり、消防の対応は近年特に大変になっており、10年前、私たちのお願いを受けて頂いた「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の制定により、地域の皆さん総参加総活躍の防災体制を強化することとされた。

今、私たちは、防災の原点は「地域」にあるとの思いのもと、消防団の存在の重要性を強く認識しながら広範な関係情報の収集分析、周知、活用、さらに装備改善、訓練実施等により、地域の総合的な対応力の一層の充実にみんなで努力している。これは、国民の皆さんの安全を高めるうえで、最も基本となることである。

地域で中核的な役割を果たしている消防団は、その地域を愛し、より豊かな、住みよい地域にしようという地域住民の皆さんの、この地域の安全を守ろうというお気持ちから生まれるもの

で、地域と密接不可分である。近年、団員の減少が著しくその確保対策が重要な課題であるが、これは、地域の活性化等と一体課題として対処しなければならない。

ヨーロッパ各国の消防機関が中心となって組織しているCTIF（国際消防救助協会）に日本消防協会が参加し各種の情報交流などを行っているが、日本の地域防災力は、まだまだ努力しなければならないものの、決して負けていない。

明治時代に日本を訪れた外国の人々は、それぞれの地域の皆さんが穏やかな笑顔で仲良く幸せな雰囲気暮らししている様子に強い感銘を受けた旨記しておられる。時代とともに変化はあるが、このような原点をもちながらその後の日本は発展してきたのであろう。技術が著しい進歩発展をとげるなかで、さまざまな対応をしなければならないが、しかし、これまで地域を支え、日本の発展を進めてきた「底力」は大切に、いろいろな面での世界的な対応のなかでも、活かさなければならない。そして、このことは、東京一極集中といわれるような状況から国内各地のバランスのとれた発展の姿にするうえでも、またおひとりおひとりの幸せのためにも大事なことであろう。



東京名所八代洲町警視庁火消出初階子乗之図

日本賢人会議所の令和5年度の取組み

事業企画推進委員会

委員長 小早川明德

(1) なぜ、今、『賢人会議』なのか

「賢人会議」の狙いは、良識あるみなさまが日頃から抱えている“望ましい社会”への想い、実現したい“豊かな地域”への提言、そして“国のあるべき姿”についての課題を、多くの皆様と論議し、集約し、精査して、具体的な実現のための行動を起こしていこうという事業です。

社会的発信としては、いわゆる外交・防衛・領土、教育・少子化などの国家的課題、あるいは環境・食糧・健康・医療・福祉などの社会的課題、健康・生きがい・介護・家族問題などの生活的課題があります。

これらの課題を、各プロジェクト・委員会と連携して、外部識者や市民の皆様とも積極的に交わりながら、社会へ創造的な発信をしていきたいと考えています。まさに、賢人会議所が『賢人会議』の“場”を提供して、広く組織内外に〈情報の創発〉をしていきたいと思ひます。

(2) 何をを目指すのか

賢人会議は広く全世代を巻き込んでいく事業でもあり、シニアの持つ“社会的バリュー”は、その経験、知識、ネットワークです。これらを自在に駆使して第一線に立つ若者の背中を押し、彼らの“志”の実現に役立つ存在でありたいと考えます。その事業の推進そのものが、“後継者の育成”、“次世代の養成”となるものと確信します。

その結果、次代を担う者の持つIT・IOT・AI、あるいは次世代情報など、若者の最新のソフト情報を理解して、長寿社会において賢人会議所自体が「シニア自身の進化」を実現する組織として社会へ寄与できる存在となるよう事業を企画し、推進してまいります。

文化教育委員会

委員長 宮下研一

委員会活動の内容等について、前回、本会の大きなタイトルを「振り返れば未来」と致しましたが、これは我が師木村尚三郎の言葉でありました。

さてこれを具体的にどうすべきかを考えあぐねましたが、「逆（さかさ）・自分

史」を書くという題目としたいと思ひます。

これはかつて私が編集者時代、「梅干し博士」として名を馳せた国学院大学の樋口清之先生を担当し、『逆（さかさ）・日本史』と言う歴史書全4巻を編集・出版したことから発想しました。

このコンセプトは、現在→その前の時代→さらにその前の時代→と遡って古代に至るものでしたが、それを個人の自分史に適用したらどうかと考えたものです。夫々に大きなお仕事をされて来られた会員各位が過去を振り返りながら、逆さまに自分史を書く。これを一年のテーマとしたいと思ひております。

広報渉外委員会

委員長 渡辺仁史

広報は、時代とともにその媒体や表現方法が変化するもので、インターネットの時代に対応した広報のあり方について、メタバースすなわち仮想空間での情報のやり取りも念頭に、本委員会で議論してまいります。

2024年の設立10周年記念までには、当会のホームページのあり方やFacebookでの発信も強化し、さらに若い世代に当会の存在を広報するためにもInstagramへの移行や動画配信も含めて、新たな仕組みと環境を整備してまいります。

コンプライアンス委員会

委員長 永山俊男

我が国の企業活動も世界に拡大し、様々な人種・宗教・価値観を有する人々との協業が不可欠となった現在、コンプライアンスは企業経営の根幹とされています。

一方、当会は企業ではなく、あくまでも、各個人が自由意志で参加している一般社団法人です。その中で、『お金』と『ハラスメント』に留意して行くことは極めて重要です。

『お金』とは、もちろん当会議所の年会費や講演会参加費等の適正な運用です。会員から徴収させて頂いたお金が、常に正しく運用・活用されている事が、極めて大切です。当会議所の『お金』の運用に、少しでも疑念や疑問を持たれた方が、気軽に指摘し、発言できるよう環境を整備してまいります。

『ハラスメント』とは、当会議所会員相互の問題です。当会議所では、憲章を定め、その目標を達成するために、7つの努力目標を掲げています。この努力目標を実践している限り、会員相互間での『ハラスメント』が発生するとは考えにくいのですが、そうした事象を見聞きされた会員が、躊躇なく当委員会に連絡できる仕組みを強化致します。





～自然に帰れ～

新型コロナ禍に続きウクライナ戦争さらにトルコ地震も発生し、世界は大きな試練に直面してまいりました。さらに日本では安心・安全の医療保障制度が脅かされる「2025年問題」を迎えます。

第二次未病タスク委員会ではこのような現状に対して異次元の対策として、第

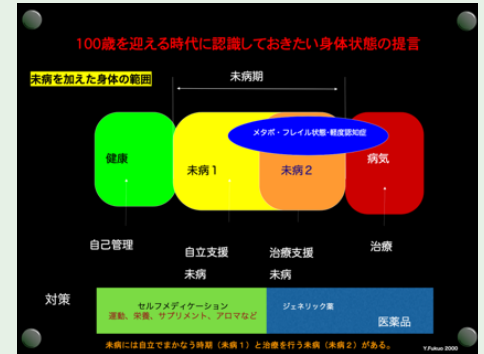
三の心身状態である「未病の概念」の活用を政府、国に対して提言して行く所存です。

本来、健康と病気は連続しておりますのでその間の未病の状態を理解し、これを基にして社会保障政策の再構築を提案していきます。実際、19世紀に出来た保険制度自体が「健康か病気か」の二元論を創り上げ、未病を遮蔽してしまったと考えられます。自然に帰れ、です。

時代は医学の発展ならびにビッグデータを駆使したAI技術の進歩によりこの未病の状態は可視化出来る所まで来ております。自分で自分の身体を守ることが出来る未病の状態を提言する事がこの第

二次未病タスク委員会の活動方針です。

これまでの第一次タスク委員会での「まとめ」を基にしてさらにバージョンアップさせ、未病領域への提言を検討していきます。そして日本未病学会や日本未病総合研究所と連携し、共同で提言をまとめ提出する予定です。提出先にはしかるべき所轄の人物を検討いたしております。



前回の会報においてプロジェクトの展望と今後の議論の方向性について述べさせていただきましたが、当プロジェクトへの参加メンバーが確定後、1月18日にメンバーの初顔合わせに際し、プロジェクトの進め方について意見交換いたしました。

活動を進めるにあたり、原則2か月に1回の頻度で参加メンバーが集合し、定期的な意見交換をすることを目指します。

その際の議論として先ず、「働き方改革」についての現状認識をすることから始めます。2019年に我が国で具体的な議論が始まった「働き方改革」の、当時目指した姿と現状の姿を比較し、課題にどのように取り組み、その成果として実現された事柄を検証します。また、現

時点で残されている課題に対し具体的な対応策が選択されているかについても検証します。

次に現状の「働き方改革」で特に課題があり、議論を深める必要のある分野・職種を選択し、そこにおける問題点を整理します。具体的には学校の教員、病院の医師・看護師、運送業従事者等々についてです。

上記二つの議論と並行して、現代における「働く」ことの意味、意義、価値、等について改めて原点に立ち戻り見つめ直して、それがどのように「働き方改革」の議論に反映されているかを検証します。

最後に、この点が最も重要な点ですが、働くことの中身、つまり仕事そのものを改革することの議論をいたします。具体的には仕事の改革、労働生産性の向上のために実施された諸施策について検証し、更に改革を推進するためにどうすべきかについて議論を進めます。

以上の議論を推進すると同時に年度中に、「働き方改革」に関する関与者、専門家に依頼し、会議所メンバーを対象にしたセミナー・意見交換会を開催することも検討します。

最終的には年度中の議論を総括し、理事会等で報告・説明後、ホームページ

等を通じてプロジェクトとしての提言を対外的に発信できればと考えております。





地球環境問題 プロジェクト

リーダー 森本英香

脱炭素（カーボンニュートラル）、循環経済（サーキュラーエコノミー）、生物多様性保全など環境に関する動きについて情報提供を行うことを日常的な活動とし、まずは関連している早稲田大学、東海大学、東京大学等で進められている「環境」「サステナビリティ」等に関する情報を会員に提供して関心を持っていただくように致したいと思います。

そのうえで、プロジェクト活動としては、「気候変動や自然破壊によって被害を受けている途上国（バングラディ

シュ、東チモールなど）に何ができるか検討すること」を活動の柱として参ります。



縄文文化/古事記 プロジェクト

リーダー 瀬尾純一郎

日本のルーツともいうべき縄文時代や古事記の分野では、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録されるなど、最近になり新たな発見や認識がなされるようになってきています。そこでこれら分野を改めて勉強しなおすため、メンバー内で相談しながら講演会の開催や縄文文化・古事記ゆかりの地を訪ねることを検討して参ります。



多子化健全化社会の構築 プロジェクト

リーダー 佐伯浩明

令和5年新春講演会では、一億総活躍・少子化担当大臣や自民党少子化対策調査会長を務めた衛藤晟一参議院議員に「国家の存亡の要人口減少の危機」と題してお話頂きました。

衛藤氏は講演で、わが国の出生数が近々80万人を切る可能性が高いと明言し、少子化を「国民共通の重大な危機」ととらえて取り組んでいると説明しています。政府が閣議決定で「少子化社

会対策大綱」を打ち出したのは、33年前の令和2年1990年ですが、いまだに減少を止める有効な手立ては見いだせていません。

多子化プロジェクトチームは、財政や環境のみならず、「人間力の強化」と言った精神的側面にも光を当てて新たな提言をまとめたいと考えています。



南太平洋の次世代との交流を進めるプロジェクト

リーダー 栗山昌子

も我が国との関係が深く、この地域の平和と安定のためにも、より緊密な関係構築が求められています。1964年の東京オリンピックは、私たちに国際社会との関係や人種・言語を超えて誰もが平和を希求することなど、様々な気づきを得てくれました。これまで、様々なチャリティーイベントによりご寄付を賜り、東京2020五輪組織委員会や外務省からも支援を頂戴したものの、東京2020は無観客開催となり、残念ながらプロジェクトの実現には至りませんでした。

初心を忘れることなく、引き続き南太平洋の未来を担う次世代との新たな交流の可能性を検討いたします。現時点で予想される国際的事業の中で、「大阪万博

2025」も候補の一つにあげられますが、皆さまのご意見をいただいた上で、太平洋島嶼国の次世代との交流の実現に向けて取り組んで参ります。

その第一歩として、プロジェクト・メンバーによる意見交換、情報交換等により実現可能な具体的事業について検討いたします。

南太平洋の国々は、歴史的にも地理的に

■介助犬ってパッピー / 日本介助犬協会

橋本久美子会長は、国際なぎなた連盟会長、ラテンアメリカ婦人協会会長とともに社会福祉法人日本介助犬協会でも長年わたり会長を務めておられます。橋本龍太郎総理が身体障害者補助犬を推進する議員の会（補助犬議連）の会長として身体障害者補助犬法の成立に尽力されたからです。同協会の渡邊真子さんにお話を伺いました。（取材：事務局）

「介助犬って、人のために働かされて可哀想」とおっしゃる方もいますが、人と遊ぶことが大好きな犬にとっては遊びの感覚で、犬は人と何かがしたいと飽きずに仕事してくれます。特に人とつながることが大好きで、何でも楽しめてしまう根明な性格のラブラドルやゴールデン・レトリバーが介助犬に向いていて、多くがこの犬種です。介助犬は、障害のある方が落とした物を拾ったり、ドアを開けてくれたりなど日常の手助けをするだけでなく、「この子となら外出してみよう」「社会に出てみよう」元氣や勇気をくれることもしばしばです。聖マリアンナ医科大学病院では、手術室まで小児の患者さんなどをエスコートしてくれる勤務犬が3代にわたり活躍しています。

身体障害者補助犬としては、盲導犬の848頭に比べ、介助犬は53頭、聴導犬は58頭と少なく、配置されていない都道府県もあります。（厚生労働省2022年10月）少しでも多くの地域に介助犬を普及することが、私たちの目標です。特に介助犬は使用者に合わせたオーダーメイドのトレーニングのため、使用者候補との寝起きをともにした合同訓練（2ヶ月～半年）も必要となり養成に時間がかかります。そのような地味な活動の積み重ねですが、橋本久美子会長には、介助犬の認知度を高めるためにご尽力頂いており、介助犬サポート大使のジュディ・オングさんや菅野智之巨人軍投手も橋本会長とご縁で就任いただいています。



介助犬に関する関連情報は8ページに



冷蔵庫からドリンクを出してくれるファンタくん



シニア世代になってもペットと暮らす

特集

ペットと暮ら

■“るい”ちゃん安らかなれ / 小早川明徳

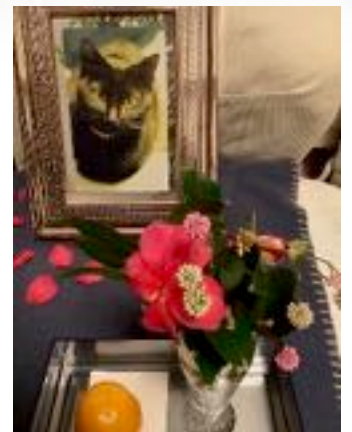
うちの愛猫るい。るいが居るところが私の安らぎの場所でした。るいは、私が悩んだり怒った時に、そーっと寄り添い、足元で首をあげて、私を見つめながら、人が話しかけるように小声で嘯き、慰めてくれました。朝は、毎朝6時に、電子時計と同じ正確さで起こしてくれました。まず、ほっぺにやさしくチュウ、そして目の上に。それで起きないときは、鼻に手を突っ込んで、まるで、「起きろっ!!」と言うように。

ときに、私の母親の様な存在感すら感じさせてくれた、かけがえのない日々も、とうとう、幕を閉じる日が近づいてきました。年老いたるいの徘徊が激しくなり、水の飲み方がわからず頭からずぶ濡れになったり、ご飯をキッチリ食べる事すらできず、名前を呼んでも反応しなくなり、明らかに日1日と”老の現実”を突き付けてきたのです。

そんなある日、生死を彷徨う日々を送ったるいは、いつしか生との戦いも終えたかの様に、あの静かで利口なるいに戻った安らかな落ち着きを見せてくれました。もしかして雲の晴れ間に似て、「最後かも知れない」との想いがよぎった私は、横たわるるいを抱きかかえる様に添い寝させて一晩の幸せを味わうことができました。その翌日、心配ながら病院へ預け、次の日の昼下がり、病院から愛おしく抱っこして帰りました。お医者さんは「朝まで持つかどうか心配でした。るいちゃんも頑張って待ってましたよ。」と、伝えてくれました。

とうとう、その時が来ました。るいが腕の中で目を開けたまま、みるみる間に目を淀まし動かなくなりました。それでもるいは、親孝行もんで、いつも歌う「るい賛歌」、”ルイちゃんはねって、美人で利口で素敵だよ!! だから、みんなルイちゃんのこと大好きって言うんだよ。嬉しいな、ルイちゃん!!”と、耳元で聞かせる。なんと奇跡がおこったではありませんか。目に生気が戻り、よちよちなながらも水場まで歩いて見せてくれました。

しばし喜ばせてくれたるいも、とうとう力尽き、令和3年の12月20日夜、私に抱かれたまま、末期の水を飲み終えて、17歳10ヶ月の天寿を完うし逝ってしまいました。その日、葬送の日は25日、Xmasを共に過ごすこと決め、ツリーを飾り、金メダルをかけて感謝の想いを伝え、折おりに生きているが如くに声をかけ、別れの朝を迎えました。5日間の時間にもかかわらず、るいの態度は堂々として、生きているが如く威厳に満ちていました。抱き上げた時の柔らかな感触が今も伝わってきます。「ありがとうるい、また会いたいな。。。」。思えば、手のひらの乗るほどの幼き”るい”に、ミルクをのませ、あちこち車に乗せて連れ回った日々もあった。満ち足りた表情を見せてくれた晩年が、せめてもの我が救いでありました。



安らかなれ、嗚呼、るいちゃん!!



長女 因泥モモ(左) 6月で6歳、次女 因泥べこ(右) 10月で6歳
あたし達、こう見えてもおばさんなのです(笑)

■ウサギは寂しいと死んじゃうの？ / 因泥友子

この様なフレーズを聞いた事ありませんか？

ウサギさんを飼い始めてから6年、その真相が分かってきました。答えは半分Yesです。

一見ツンデレに見えますが、もの凄いい甘えん坊で構ってちゃんなので、こう言うフレーズが出てきたのかも知れません。(ドラマの影響もある様です。)

小学校でうさぎの飼育係をした程度では、構ってちゃんだと気が付かず、ずっと一緒に暮らしてきて分かってきました。ウサギさんは声帯がないため鳴く事はできませんが、喉を震わせて「う〜」と小さい音を出したり、ぶ〜ぶ〜鼻を鳴らしたり、

足を鳴らしたり、体全体で感情を表す事により、人間と会話をする事が出来ます。ウサギさんは鳴かないので我が家は静かなの？いいえ、構ってちゃんが2人(1)もいるので、毎日賑やかです。

また、ウサギさんは夜行性なので午後はおとなしく寝ています。仕事で家を空けていても、昼間は寝ている為、手がかかりません。男性のウサ飼いが多いのも、そのせいかも知れません。

コロナや戦争などのニュースで、身も心も疲れる昨今ですが、ウサギさんのかわいい容姿と性格に毎日癒されます。我が家では、ウサギさんはケージに入れずに、広めのサークル(柵)を作って放し飼い状態にしているのですが、仕事から帰った後は、家全体を開放して走り回らせます。走った後は、「撫でて〜」と言って、体をくっ付けて来て離れません。その時が疲れが吹き飛ばす至福のひと時です。ウサギさんを撫でていると心が穏やかになり、うちの子になってくれて本当にありがとうございます！と、毎日感謝の気持ちで一杯です。

これからも元気で頑張ろうね。



「新しい幸せのカたち」

4姉妹のルカ・モコ・チコ・ラブ / 渡辺仁史

す

■「可愛くないヤツ」 / 小林正博

いわゆる洋犬ミニチュアシュナウザーをアンディと名付け、15年ともに過ごしました。日本の柴犬などの犬種は、飼い主に忠誠心が強い反面、他人にはあまりフレンドリーではないようです。他方で洋犬は一般に人間が大好きで、可愛がってくれる人には誰彼となく擦り寄っていくようです。

でも、アンディは小さな子供が嫌いでした。子供が無邪気に撫でようと近づくと吠えるのです。拙宅のすぐ近くには小学校があり、下校途中の子供たちが「わあ、可愛い」と近づいてくれます。

最初は良かったのですが、大勢の子供たちに囲まれて、四方八方から小さな手が伸びて来ることがトラウマとなり、いつか子供たちに吠えるようになってしまいました。

他の飼い犬たちのように、私が深夜帰宅しても必ず尻尾をフリフリ玄関に出迎えてくれ、海外赴任で半年ぶりに帰っても、さっきまで一緒だったかのように自然に受け入れてくれるアンディは、小さな子供に吠えるところが唯一「可愛くないヤツ」でした。

最近、同じような話を聞きました。孫を含む子供たちが別の祖父母を訪れ、そこに帰省していた家族のテリア犬を子供達みんな可愛がったことで、すっかり子供恐怖症になってしまったそうです。犬と過ごしている皆様、どうか小さい子供には気をつけてあげてください。



米国の子犬カレンダーに掲載されたアンディ(右)と弟のテル

特集記事補足

介助犬について興味をお持ち頂けたら、**日本介助犬協会のホームページ** (<https://s-dog.jp>) をお訪ね下さい。介助犬の動画、見学会、イベント、チャリティーなどの情報がご覧いただけます。



日本介助犬協会の渡邊真子さんとファンタくん



協会を支援する皆様に感謝を述べる橋本久美子会長

日本賢人会議所連絡先

〒104-0061

東京都中央区銀座6-6-1
銀座風月堂ビル5F

電話：03-6215-8315

FAX：03-6215-8700

事務局長携帯電話：090-8030-1002

E-mail：info@nipponkenjin.com

HP：https://www.nipponkenjin.com/

FB：https://www.facebook.com/smart.senior.council/

事務局より

第21回理事会報告

令和5年3月27日月曜に第21回理事会が開催され「令和5年度事業計画」「令和5年度収支予算」が承認されるとともに、福井照さん（チームレジリエンスJAPAN代表、元衆議院議員）および小此木富美さん（株式会社KOHO代表）の入会が承認されました。

「令和4年度事業報告」および「令和4年度決算報告」を審議する第22回理事会は5月15日月曜に、第10回定時総会は6月7日水曜に開催の予定です。



日本賢人会議所憲章

私たちは、目前に迫る超高齢社会においてシニア世代の健全な自立を促し、これに賛同する仲間たちの社会参画を進め未来の世代のためにも持続的で健康な国と社会の実現に貢献するとともに自らの生活の質的向上を図ることを目標とします。

そのために、次の7つの目標を掲げ、より賢く生きていく努力をします。

努力目標

- 1.出来ることは自分でします
- 2.人の役に立つことをします
- 3.健康で過ごせるよう努めます
- 4.聴く耳を持ち社会より学びます
- 5.人の温かさを大事にします
- 6.輝く笑顔で謙虚に生きます
- 7.感謝の気持ちを声に出します

日本賢人会議所の新事務所ご紹介

新しい事務所は、東京都中央区銀座6-6-1銀座風月堂ビル5Fにある銀座ビジネスセンター（450㎡）、銀座の「みゆき通り」と「並木通り」の交差点に所在します。専有スペースはありませんが、22の会議室（最大16名）が利用できます。当会の電話番号(03-6215-8315)に電話されると、銀座ビジネスセンターの秘書が月曜から金曜9:00～18:00の間は日本賢人会議所として対応します。また、当会のFAX(03-6215-8315)への受信については、同秘書により速やかに事務局関係者に報告されます。

これから、委員会やプロジェクトの会合等で新事務所の会議室を利用される機会も増えることと思います。利用時間は、祝日を除く月曜から土曜の9:00～20:45となっています。ご利用の際は、お気軽に事務局にご相談ください。



新事務所は「みゆき通り」と「並木通り」の交差点（写真：右上）

新事務所の会議室（10名用）